

■教育行政のポイント

“新しい教科書”はどう変わるか

菱村 幸彦

5月23日、文部科学省の教科用図書検定調査審議会は、「教科書の改善について(報告)」(以下「報告」)をまとめた。文科省は、報告に基づき、8月をめどに教科書検定基準(告示)を改正し、平成30年度に行う小学校教科書の検定から適用する予定だ。

教科書検定基準は、教科書編集の基準としての機能も持つ。そのため報告は、次期学習指導要領に対応して「教科書がどう変わるか」を示唆するものとして注目される。紙幅の制約上、ここでは報告の中で特に重要と思われる5点に絞って取り上げる。

「主体的・対話的で深い学び」への対応

第1は、「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った改善。次期指導要領が重視する「主体的・対話的で深い学び」を各学校で実践するためには、教科書がそれに対応したものに変わる必要がある。このため、教科書において「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った適切な配慮がなされることを検定基準で規定する。ただし、教科書の内容が型にはまった指導を誘導するものとならないよう留意することが重要である。

第2は、「発展的な学習内容」の規定の見直し。現行の検定基準では、発展的な学習内容を取り上げる場合は、それ以外の内容と区別することを求めているが、現状はこの基準をどこまで厳密に適用するかは、教科により異なる点がある。今後は、形式的な区別に拘泥しないで、教科書を使用する児童生徒の立場から見て「発展的な学習内容」とそれ以外の内容が実質的・客観的に区別できれば良いことを検定基準で明確にする。

第3は、小学校の外国語科への対応。次期指導要領では、小学校高学年の外国語が新たに教科として位置付けられる。このため、外国語の基準を小学校の外国語にも適用する。この場合、次期指導要領で

は、小学校の外国語教育に関して10～15分程度の短時間学習を含めた弾力的な授業時間の設定や時間割編成を定めているので、教科書は、弾力的な時間割編成の考え方も踏まえたものとする必要がある。また、外国語教育における音声の重要性への対応のため、教科書内容を音声化したものを発行者のサイトに掲載した場合は、URLやQRコード等の記載を許容することを検定基準に規定する。

プログラミング学習とデジタル教科書

第4は、小学校におけるプログラミング教育への対応。次期指導要領は、小学校におけるプログラミング学習を定めている。小学校でプログラミング学習の指導を適切に行うためには、算数や理科等の教科における学習内容と結びつけられた教材が重要となる。そこで、小学校の算数や理科の教科書でプログラミング学習が取り上げられるよう検定基準に規定する。

第5は、デジタル教科書の導入。「『デジタル教科書』に関する検討会議 最終まとめ」(平成28年12月)は、(1)紙の教科書とデジタル教科書の学習内容は同一であることが必要、(2)デジタル教科書については、改めて検定を経る必要はないことが適当、(3)動画や音声等は、基本的には検定を経ることを要しない教材として位置付けることが適当、と整理されている。報告もこの方向性が妥当としている。

また、現行の検定基準では、URL・QRコードの教科書上の取り扱いが定められていないが、今後、掲載の増加が見込まれるので、各教科における取り扱いを統一するため、検定基準でURL・QRコードの取り扱いを明確化する。

このほか、検定手続の改善のため、検定規則の改正等についても提言している。

(ひしむら・ゆきひこ＝国立教育政策研究所名誉所員)

●指導要領改訂のポイントが、この1冊でよくわかる！《最新刊》

よくわかる小学校・中学校新学習指導要領全文と要点解説

【編集】奈須正裕 B5判・250頁／定価(本体2,700円)＋税

■研修誌・図書の小社への直接のお申込みは、小社HP <http://www.kyouiku-kaihatu.co.jp> をご利用ください。

